

経営関連学会協議会（JFMRA）

理事会 議事録

日時：2016年11月20（日） 10：00～11：30

会場：明治大学駿河台研究棟4階第3会議室

理事長 風間 信隆

副理事長 植木 英雄、徐 方啓、阿部 信太郎

理事 大塚 成男、濱沖 典之、佐藤 修、高垣 行男、橋本 雅隆、吉岡 正道

監事 成道 秀雄、堀江 正之

特命理事 高橋 誠、星野 靖雄

副理事長補佐 大塚 浩記

理事長補佐 池田 武俊（議事録）

議事

1. 報告事項

第1号報告 会費納入状況について 事務局三井田氏

9月末に各学会事務局に会費の請求を行い、本日末までに38学会から納付をいただいた。残り23学会については、年末をめどに会費の再請求を行う予定である。複数年に渡り会費未納の学会が3学会ある。事務局より各学会事務局に連絡することが確認された。

第2号報告 日本学術会議公開シンポジウム後援について 風間理事長

本年7月25日付で、日本学術会議第一部会長である小森田秋夫先生より、経営関連学会協議会に対して、日本学術会議第一部拡大役員会に参加してほしい旨尾の要請があった。経営関連学会協議会を含む11の学会連合体がこのような要請を受けた。風間理事長が出席し、日本学術会議が作成中の提言「人文・社会科学の発展のために ー社会の期待に応え、社会を問い直す」の素案に対して意見交換をする機会があったことが報告された。

そのうえで、日本学術会議のサービス部会から公開シンポジウム「サービス学の参照基準」（2016年12月11日、筑波大学茗荷谷キャンパスで開催予定）の後援の依頼を受けた。学術会議との関係強化していくために、この後援に賛同し協議会のホームページでも公開シンポジウムについての情報を掲載していくことが報告された。

第3号報告 加盟学会全国大会状況について 風間理事長

学会連合体として横断的な情報共有をしていくために、学会の全国大会情報は大きな意味を持っている。今後、それぞれの分野でテーマを設定するうえでも、他学会がどんなテーマを掲げているかを知ることは大きな情報源になる。全国大会情報の提供、情報の更新が行われていない学会もあるので、開催日、場所、統一論題のテーマについて協議会事務

局に提供いただけるように、評議員会でアナウンスしていきたい旨、報告された。

第4号報告 その他

星野特命理事より、LAP LAMBERT Academic Publishing を利用した英文出版の情報提供がなされた。

2. 協議事項

第1号議案 会則変更 経営関連学会協議会の英文表記：JFMRA について 風間理事長
審議の結果、経営関連学会協議会の英文略称を「JFMRA」とするよう会則の変更を行うことに決した。今後、英文ジャーナル等において、JFMRA で統一的に表記していくことが確認された。

第2号議案 英文ジャーナル発行体制の具体化とスケジュールについて 徐副理事長

本年11月付で、英文電子ジャーナル『Journal of Japanese Management』Vol.1, No.1が刊行された。今後、英文電子ジャーナルの継続的な発行体制を構築するために、徐副理事長より以下の対応が示され、協議の結果、承認された。

・査読体制を支える査読者の推薦がなされている加盟学会はまだ3分の2程度にとどまる。すべての加盟学会に査読者2名（および査読者の専門分野についての情報）を事務局まで推薦いただけるよう依頼する。一回の刊行に20人程度の査読員を必要になるので、第2号以降の刊行のためにも査読者の充実は急務である。まずは、評議員に対して一斉メールで周知を図り、その後、風間理事長・徐副理事長名で個別に連絡することとする。

・また第1号の刊行で明らかになった、査読費用の問題、査読結果の通知プロセス上の問題に対応するため、編集委員会の「電子版英文ジャーナルの編集方針」の一部を改訂することと決した。

・第2号以降の発刊に向け、各学会で英文原稿の積極的な投稿を呼び掛けていただけるように各学会の学会通信などで情報発信してもらうよう依頼していく。

また、今後、英文ジャーナルの価値を高めていくための方法として、理事より下記の意見が述べられ、今後の課題となった。

・ISSNだけでなく、DOIの取得も目指していく必要がある。

・国際発信していくことが次の課題になる。NIIなどに掲載していくなど、今後の発行体制と合わせて次の課題として取り組んでいくことが必要である。

なお、『Journal of Japanese Management』Vol.1, No.1のEditorsの表記は、現行の記載で進めることと決した。

第3号議案 その他

なし

以上

補足事項：

本日は評議員会終了後、経営関連学会協議会主催第 9 回シンポジウムが企画された。

テーマ：「人工知能と人の価値共創をオープンイノベーションでいかに実現するか」

日時：2016 年 11 月 20 日（日） 13:40～17:00

会場：明治大学グローバルフロント 1 階グローバル・ホール（御茶ノ水駅徒歩 3 分）

シンポジウム開催趣旨：人工知能（A I）の第 3 次ブーム期を迎えて、A I の進展は私たちの仕事や生活教育などで広範に大きな影響を与えます。A I の開発や応用を推進している先進企業の事例や知見を第一線の講師陣に講演して頂き、A I と人の価値共創をオープンイノベーションでいかに実現するかという課題についてパネル討論会を通じて今後の指針と方向やあり方を検討します。

講演・パネルディスカッション：

山本 宏氏 IBM 理事 Global Electronics Industry CTO

「サイバーフィジカルシステム（CPS）とオープンイノベーション」

氏家 豊氏 SBF コンサルティング株式会社社長

「IoT 時代のイノベーション・ドライバーズ」

野村直之氏 メタデータ株式会社社長（元法政大学大学院客員教授）

討論者：澤谷由里子氏 東京工科大学教授（イノベーション論、MOT）

総合司会：植木英雄 経営関連学会協議会副理事長・東京経済大学教授

参加費：無料（終了後、交流・懇親会を開催）

申込み先：11 月 10 日（木）までに Email：jfmra.event@gmail.com

詳細：シンポジウムのポスターを参照。